



2013年3月期
第1四半期 決算説明資料

2012年 8月 7日
富士ソフト株式会社



目次

- P. 2 連結業績ハイライト
- P. 3 主なグループ会社売上高
- P. 4 連結セグメント別売上高
- P. 5 連結損益計算書
- P. 6 連結貸借対照表
- P. 7 連結キャッシュ・フロー計算書
- P. 8 連結S I事業の受注高・受注残高
- P. 9 単体業績



● 連結業績ハイライト

売上高は、単体および子会社の増収により、前年同期比111.5%で推移

◇既存顧客の深耕や新規顧客の開拓等の積極的な営業活動が奏功し、単体および連結とも増収となり、前年同期比111.5%の34,950百万円となりました。

営業利益は、売上高増加および売上原価率の改善と単体における販管費抑制を主因に大幅増益

◇営業利益は売上高増加および売上原価率の改善と単体における販管費の抑制を主因に、1,922百万円と大幅増益となりました。

◇四半期純利益は税金計上額の増加により、316百万円となりました。

(単位：百万円)

	2012年3月期 第1四半期 実績	2013年3月期 第1四半期 実績	前同差	前同比
売上高	31,338	34,950	+ 3,611	111.5%
営業利益	424	1,922	+ 1,497	452.9%
営業利益率	1.4%	5.5%	+ 4.1	
経常利益	286	1,820	+ 1,533	635.9%
経常利益率	0.9%	5.2%	+ 4.3	
四半期純利益	△ 239	316	+ 555	—
四半期純利益率	—	0.9%	—	

● 主なグループ会社売上高

(単位：百万円)

	2012年3月期 第1四半期 実績	2013年3月期 第1四半期 実績	前同差	前同比
富士ソフト（東証一部）	16,497	18,338	+1,841	111.2%
サイバネットシステム（東証一部）	3,863	4,141	+278	107.2%
ヴィンキュラム ジャパン(JASDAQ)	2,277	2,362	+84	103.7%
サイバーコム（JASDAQ）	1,593	1,669	+76	104.8%
ヴィクサス（非上場）	3,961	4,267	+306	107.7%

主なグループ会社売上高のポイント

(単体業績はP.9をご参照ください)

●サイバネットシステム

CAEの主力ソフトウェア分野（機械系）の保守契約更新が堅調であったことを主因に前年同期比107.2%の増収となりました。

●ヴィンキュラム ジャパン

大手総合小売業向け基幹システムの大型開発案件が堅調に推移したことにより、前年同期比103.7%の増収となりました。

●サイバーコム

ネットワークやサーバの構築・保守・運用サービス等が堅調に推移し、前年同期比104.8%の増収となりました。

●ヴィクサス

主要顧客においてハードウェア等の更新、インフラ構築などの案件を獲得したことに伴い、前年同期比107.7%の増収となりました。



連結セグメント別売上高

(単位：百万円)

	2012年3月期 第1四半期		2013年3月期 第1四半期		前同差	前同比
	実績	構成比	実績	構成比		
売上高 合計	31,338	100.0%	34,950	100.0%	+ 3,611	111.5%
S I 事業	29,207	93.2%	32,874	94.1%	+ 3,666	112.6%
組込系ソフトウェア開発	8,774	28.0%	9,406	26.9%	+ 632	107.2%
業務系ソフトウェア開発	10,597	33.8%	13,317	38.1%	+ 2,719	125.7%
アウトソーシング事業	3,481	11.1%	3,580	10.2%	+ 98	102.8%
その他 S I 事業	6,354	20.3%	6,570	18.8%	+ 215	103.4%
ファシリティ事業	494	1.6%	469	1.3%	△ 24	95.0%
その他事業	1,636	5.2%	1,606	4.6%	△ 30	98.2%

セグメント別売上高のポイント

< S I 事業 >

●組込系ソフトウェア開発

前年度より引き続き、機械制御系（自動車関連）、通信制御系（スマートフォン関連、基地局関連）が堅調に推移したことにより増収となりました。

●業務系ソフトウェア開発

前年度より引き続き、社会インフラ系（交通関連など）、インターネットビジネス関連などが堅調に推移したこと、および単体やヴィクスにて大型の更新需要があったことにより大幅増収となりました。

●アウトソーシング事業

単体およびヴィンキュラム・証券系子会社など各社が堅調に推移したため、増収となりました。

●その他 S I 事業

サイバネットにおけるCAEのライセンス保守契約更新とサイバーコムにおけるネットワーク・サーバ構築などの案件が寄与し増収となりました。



連結損益計算書

(単位：百万円)

	2012年3月期 第1四半期 実績	2013年3月期 第1四半期 実績	前同差	前同比
売上高	31,338	34,950	+3,611	111.5%
売上原価	24,254	26,611	+2,356	109.7%
売上原価率	77.4%	76.1%	△ 1.3	
売上総利益	7,083	8,338	+1,255 ①	117.7%
売上総利益率	22.6%	23.9%	+ 1.3	
販売費及び一般管理費	6,658	6,416	△ 242	96.4%
販管費率	21.2%	18.4%	△ 2.9	
営業利益	424	1,922	+1,497 ②	452.9%
営業利益率	1.4%	5.5%	+ 4.1	
営業外収益	199	128	△ 71	64.3%
営業外費用	337	230	△ 107	68.2%
経常利益	286	1,820	+1,533	635.9%
経常利益率	0.9%	5.2%	+ 4.3	
特別利益	40	0	△ 40	0.7%
特別損失	89	5	△ 83	6.2%
税金等調整前四半期純利益	238	1,814	+1,576	762.1%
法人税等合計	329	1,332	+1,002 ③	404.2%
少数株主利益	147	166	+18	112.3%
四半期純利益	△ 239	316	+555	-
四半期純利益率	-	0.9%	-	

損益計算書のポイント

①売上総利益 (前同差+1,255百万円)

前年度のヴィクサスの不採算案件の終息で売上原価率が改善したことを主因に増益

②営業利益 (前同差+1,497百万円)

売上高の増加および売上原価率の改善、単体における販管費の抑制を主因に増益

③法人税等合計 (前同差+1,002百万円)

増益に伴う税金の増加および子会社（富士ソフトケーシーエス）の売却に伴う税効果を計上したことによる増加（株式譲渡実行日：7月31日）



連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2012年3月期 期末	2013年3月期 第1四半期 期末	前期末差
流動資産	49,019	46,056	△ 2,963
現金及び預金	13,420	11,983	△ 1,436 ①
受取手形及び売掛金	28,364	25,688	△ 2,676 ②
仕掛品	1,662	2,610	+947
その他	5,572	5,773	+201
固定資産	106,724	105,463	△ 1,261
有形固定資産	74,340	73,643	△ 696
無形固定資産	9,334	9,482	+147
投資その他の資産	23,049	22,336	△ 712
資産合計	155,744	151,519	△ 4,224
流動負債	40,343	37,135	△ 3,208
買掛金	7,902	7,360	△ 541 ②
短期借入金・1年内返済予定の長期借入金	17,632	13,686	△ 3,945 ①
未払費用	7,281	9,470	+2,189 ③
その他	7,527	6,616	△ 910
固定負債	30,212	29,135	△ 1,076
長期借入金	21,829	20,699	△ 1,129 ④
その他	8,382	8,436	+53
負債合計	70,555	66,271	△ 4,284
純資産合計	85,188	85,248	+ 60
負債純資産合計	155,744	151,519	△ 4,224

貸借対照表のポイント

- ①現金及び預金 (前期末差△1,436百万円)
短期借入金・1年内返済予定の長期借入金
(前期末差△3,945百万円)
借入金の返済を進め減少
- ②受取手形及び売掛金 (前期末差△2,676百万円)
買掛金 (前期末差△541百万円)
季節要因による売掛金、買掛金の減少
- ③未払費用 (前期末差+2,189百万円)
冬季賞与引当の計上
- ④長期借入金 (前期末差△1,129百万円)
約定返済に伴う減少



連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	2012年3月期 第1四半期 実績	2013年3月期 第1四半期 実績	前同差
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,833	4,654	△ 179
投資活動によるキャッシュ・フロー	321	△ 545	△ 866 ①
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 8,511	△ 5,613	+2,898 ②
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 11	21	+32
現金及び現金同等物の増減額	△ 3,367	△ 1,483	+1,884
現金及び現金同等物の期首残高	22,044	13,279	△ 8,765
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	110	+110
現金及び現金同等物の四半期末残高	18,676	11,906	△ 6,769

キャッシュ・フローのポイント

①投資活動によるキャッシュ・フロー (前同差△866百万円)

単体において自社プロダクト (FSM Mobile・ロボット関連他) やデータセンターへの投資、ヴィクサスにおいて主要顧客のシステム構築に関わる投資等があったものの、前年にサイバネットにおいて投資有価証券の売却による収入 (1,042百万円) があったことの反動により、前同差△866百万円となりました。

②財務活動によるキャッシュ・フロー (前同差+2,898百万円)

借入金の約定返済により、前同差+2,898百万円となりました。



● 連結SI事業の受注高・受注残高

(単位：百万円)

	2013年3月期 第1四半期実績							
	期首受注残高	前同比	受注高	前同比	売上高	前同比	期末受注残高	前同比
SI事業 合計	32,752	105.1%	30,226	105.1%	32,874	112.6%	30,104	98.0%
組込系ソフトウェア開発	7,840	103.5%	10,128	113.9%	9,406	107.2%	8,561	111.4%
業務系ソフトウェア開発	12,280	112.0%	12,699	119.2%	13,317	125.7%	11,663	105.9%
アウトソーシング事業	6,881	102.5%	2,353	71.8%	3,580	102.8%	5,654	86.8%
その他SI事業	5,750	97.0%	5,044	85.1%	6,570	103.4%	4,225	76.8%

受注高・受注残高のポイント

●受注高のポイント

組込系は機械制御系（自動車関連）、通信制御系（スマートフォン関連、基地局関連）が好調に推移したことにより、前年同期比113.9%となりました。業務系は社会インフラ系、インターネットビジネス関連が好調で、またその他の分野も堅調に推移したことにより前年同期比119.2%となりました。

一方、アウトソーシング事業では単体において大型案件の受注時期がズレたことと、前年に大型案件を受注した反動減により前年同期比71.8%となりました。また、その他SI事業については単体、サイバネットでプロダクト案件の受注が減少したため、前年同期比85.1%となり、SI事業全体では前年同期比105.1%となりました。

●受注残高のポイント

組込系は四半期末に受注が集中する機械制御系（自動車関連）が伸張したため、前年同期比111.4%となりました。業務系はソフトウェアライセンスや機器販売などの受注から売上計上までの期間が短い物販売上高の構成比率が高いことにより、受注高の伸び率に比し期末受注残高は105.9%にとどまりました。

一方、アウトソーシング事業についてはヴィクサスにおいて主要顧客の保守・運用の事業規模縮小を主因に前年同期比86.8%となりました。また、その他SI事業については前年に受注したフィーチャーフォン関連プロダクトの販売が進んだことにより前年同期比76.8%となり、SI事業全体では前年同期比98.0%となりました。



単体業績

(単位：百万円)

	2012年3月期 第1四半期 実績	2013年3月期 第1四半期 実績	前同差	前同比
売上高	16,497	18,338	+1,841	111.2% ①
売上原価	12,530	14,205	+1,674	113.4%
売上原価率	76.0%	77.5%	+1.5	②
売上総利益	3,967	4,133	+166	104.2%
売上総利益率	24.0%	22.5%	△1.5	
販売費及び一般管理費	3,634	3,403	△231	93.6%
販管費率	22.0%	18.6%	△3.4	
営業利益	332	730	+397	219.4% ③
営業利益率	2.0%	4.0%	+1.9	
経常利益	670	902	+231	134.6%
経常利益率	4.1%	4.9%	+0.8	
税金等調整前四半期純利益	670	902	+231	134.6%
法人税等合計	78	233	+155	298.0%
四半期純利益	591	668	+76	113.0% ④
四半期純利益率	3.6%	3.6%	—	

単体業績のポイント

①売上高 (前同差+1,841百万円)

組込系は自動車関連を中心に機械制御系が好調だったことに加えて通信制御系でもスマートフォン関連や基地局関連が堅調に推移し、業務系でも前期から引き続き社会インフラ系やインターネットビジネス関連などが好調に推移したことにより増収

②売上原価率 (前同差+1.5)

ソフトウェアライセンスおよび機器販売の増加の影響

③営業利益 (前同差+397百万円)

売上高の増加および販管費の抑制を主因に増益

④四半期純利益 (前同差+76百万円)

増益に伴う法人税計上額の増加



※ 本資料に掲載されている業績の見通し等将来に関する情報は、現在入手可能な情報に基づいて合理的と判断したものです。実際の業績は市場動向、経済情勢など様々な要因の変化により大きく異なる可能性がありますことをご承知おき下さい。

また、資料配布の目的が、当社株式の保有継続および追加購入を推奨するものではないことも、あわせてご理解いただきますようお願い申し上げます。